

平成 26 年度第 1 回北広島市図書館協議会議事録

開催日 平成 27 年 2 月 18 日(水)

開催時間 午後 7 時から

開催場所 図書館 2 階 AV サロン

【開会：丸毛館長】

ただ今より、平成 26 年度第 1 回北広島市図書館協議会を開催いたします。

本日は、委員 9 名の出席ですので、規定の過半数を超えており、本日の会議は成立していることをご報告いたします。

議事の進行を、会長が決まるまで、私の方でさせていただきます。それでは会議次第に従いまして進めさせていただきます。今回 2 年の任期の 1 年目ということで、この顔ぶれで行うのは今回が初めてでございますので、簡単に自己紹介をお願いいたします。

【自己紹介】

伊藤委員→福与委員→駒場委員→水落委員→岡元委員→北川委員→名越委員→田中教頭(後藤委員代理)→菊地委員→舟橋委員

続きまして、職員の自己紹介をさせていただきます。

丸毛館長→太田主任→大久保主事→蛭名主査

【役員を選任】

次に図書館条例第 10 条第 1 項に基づき、会長・副会長の選任を行いたいと思います。

※条例により、委員の互選において、会長に舟橋委員、副会長に福与委員に決定した。

では、会長・副会長が決まりましたので、ここからの議事進行を会長をお願いいたします。

【舟橋会長】

それでは会議次第に従いまして議事を進めさせていただきます。今、議事の 3 番目まで終了しましたので、4 番目の報告案件から務めさせていただきます。それでは 4 の報告案件の (1) 平成 26 年度北広島市図書館利用状況から (3) 平成 27 年度予算案の概要まで一括して事務局から報告をお願いします。

【事務局:蛭名司書】

まずはじめに、「1.平成 26 年度図書館利用状況」について説明させていただきます。2 ページ目をご覧ください。過去の図書館の利用状況も掲載しておりますが、平成 26 年度につきましては、年度途中であるため、4 月から 1 月までの数字を示しております。

また、昨年度との比較対象については、1ページの下にのせております。市の人口は243人減少、貸出数は全館で13,493冊減少しております。そのなかで、住民センターの利用は2,269冊増加しています。このあたりが図書館の利用から近くの地区分室への利用に推移されたものと思われます。

人口の減少も貸出数に影響していると思われますが、近隣の市町村や図書館界全体においても貸出の利用は減少傾向にあります。これは電子書籍やスマートフォン、インターネットの普及など社会的状況の影響も受けていると思われます。今後は、貸出だけではない図書館の利用というものが図書館界全体で見直されていくものと思われます。

次に3ページ目の「2.AVコーナーの利用状況」についてですが、上映会の入場者数は昨年と同期間の比較で126人増加しています。ただし、※印にもありますが、今年度は8月～9月にかけてシステム更新作業により、AVサロンを使用していたため、2回ほど上映会をお休みしています。個人ブースやインターネット端末の利用を含め、AVコーナーの利用状況は、高齢者層の利用が全体の高い利用につながっていると考えられます。

続きまして、4ページ目の「3.予約処理の状況」についてですが、25年度の合計は53,733件でした。今年度も50,000件を超えるものと思われます。現在1月末の数字を昨年度の同期間で比較していますが、貸出数が減少しているのに反して3,593件増加しています。

また、9月にシステム更新を行い、ホームページ等もリニューアルしました。昨年の10月からインターネットからのweb予約件数を5件とした影響もあり、webからの予約件数は昨年よりも昨年同時期比較で昨年が全体の26.3%だったのに対して、今年度は34.6%と8.3ポイント増加しております。自分で予約し、受取館を選べることができ、操作の簡易さ、時間を問わず予約できることが高くなった要因かと思われます。

地区別の予約件数は次の5ページ目に詳細な数を出していますが、窓口（カウンター）での予約が本館では67.6%、大曲では55.8%、西の里では50.8%、西部では56.1%、住民センターでは82.9%、移動図書館車では73.7%となっています。本館、住民センター、移動図書館車では、約7～8割が職員を介した予約となっています。この予約受付状況にも高齢者層の利用者が多いことによるものと考えます。これに対して、大曲・西の里については比較的若い世代が多く、インターネットを利用しての予約が見られます。

続きまして「4.高齢者等図書宅配サービスやけ便」の利用状況についてですが、平成24年9月からこのサービスを開始し、当初4名の利用で始まり、26年度は個人の利用が7名になっております。今年度は新たに2名の方の利用が増えました。地区別に申し上げますと大曲地区が2名、東部地区2名、団地地区2名、西部地区が1名となっており、その内ボランティアによる宅配が3名となっております。利用者の皆さんは2週間に一度の宅配を大変心待ちにしております。宅配をしてくださっているボランティアさんにも感謝の声が直接伝わっているような状況です。

施設についても、平成25年9月から北広島リハビリセンターに1ヶ月に1回、宅配サービスを実施しております。本日参加している協議会委員の菊地さんが施設の窓口を担当さ

れており、約 10 数名の方が利用されていると伺っております。平均すると 1 回につき約 20 冊程度の利用となっております。

この宅配事業に関しては、今後、北広島は高齢者が増える一方ですので、資料の充実はもちろんのこと、現在のきめ細かなサービスを継続していきたいと考えております。以上です。

【事務局:太田主任】

平成 26 年学校図書利用状況について説明させていただきます。小学校は 8 校ありまして、全体では平成 25 年度 1 月末現在において 73,692 冊の貸し出し、児童数は 3,390 名で、一人当たりの貸出冊数が出ております。

平成 26 年度 1 月末現在においては 68,722 冊、児童数は 3,252 名で、昨年度より 138 名減少しております。一人当たりの貸出冊数は 21.1 冊となっております。全体として一人当たりの貸出冊数が 0.6 冊ほど減少しております。

中学校につきましては、一人当たりの貸出冊数において、平成 25 年度が 4.6 冊に対して、平成 26 年度は 4.8 冊で、若干増えている状況にあります。先ほど説明がありましたが、今年度 8 月にシステム等の更新で、通常の 8 月の開館日が 1 週間ほど閉館になりました。小中学校について学校ごとの増減はありますが、全体として例年並みの貸出冊数となっております。

続きまして、平成 26 年度学校図書センターの取り組みについて説明させていただきます。今年度学校図書センターとしては新しい事業をスタートしております。1 の各中学校への学校司書配置を今年の 6 月からスタートいたしました。

次の 8 ページをご覧ください。こちらに学校司書の支援業務計画を抜粋したものを載せております。市内の中学校 6 校と小学校 7 校に対し支援業務を行っています。西部小学校については公共図書館と兼務の職員が常駐しておりますので、除いております。

業務時間としては、月曜日から金曜日の 1 日 4 時間で、原則 10 時から 2 時までの勤務となっております。基本的に中学生の昼休みの時間帯にあわせての勤務としています。業務内容としては 7 項目あります。その他業務として 3 項目を挙げております。

配置内容としては、一人が 2 校を担当し、隔週による定期的な巡回業務で、3 名の学校司書が配置されておまして、その担当校については、資料のとおりで、小学校につきましては、年に 2 回 1 つの小学校に 3 名の学校司書が同時に入り、環境整備、主に棚整理を中心に行っております。このような形で 6 月から配置を始めました。学校司書の配置による効果としては 7 ページに載せておりますが、学校図書館の把握ができるようになりました。学校司書が作成した業務日報を毎週、図書センターで確認しております。今までですと、統計上の数値からでしか学校の様子がわかりませんでした。数値だけでは見えてこなかった学校の細かい様子や生徒の利用状況がよく見えるようになりました。今後の図書館業務を進めていく上での貴重なデータとして活用しております。その結果を受け、各学校に

対して取り組んだこと、今後取り組んでまいりたいことを紹介しております。

今年度学校司書においては環境整備を中心とした業務を行ってきました。今後は各中学校の規模や利用状況を踏まえ、学校に合わせた読書活動の推進を図って参りたいと思えます。もう一つの効果としては公共図書館からの資料の借り受けに伴い、団体貸出数が増えています。

小学校につきましては、例年並みの利用状況となっており、中学校につきましては、約6倍に増加しています。主に特集コーナー等や学校との行事で、学校から希望があった本を中心に貸出を行ったために増えていると思えます。

また、西部中学校では、多目的ホールにて、出張貸出コーナーを設置しました。西部中学校は学校図書館が手狭な環境もありましたので、図書館の外に閲覧コーナーを設け、図書の貸出をしております。また、一方では課題も見えて参りました。

1つは、図書センターとして、学校に向けた活動内容をお知らせするPRが十分ではなかったと思えます。今後は通信等のような形で、学校に図書センター、学校司書がどうしているかといった報告を通信等を通して行っていきたくと考えております。さらに担当の先生との打ち合わせの時間が十分にとれなかったことから、今後は定期的な打ち合わせをする機会が必要であると考えております。

2つ目に、今年度は学校司書の配置に伴い、飛躍的な貸出数の増加には繋がりませんでした。貸出に繋がるような読書普及事業の実施に取り組んでまいりたいと考えております。最近ではビブリオバトルという本の紹介を対戦形式で行うイベントが学校図書館や書店でも行われておりますが、そうした、本を読みたくなるようなイベントを企画して、貸出につなげて参りたいと考えております。

3つ目に資料更新を挙げておりますが、当市では充足率という点では100%を超えておりますが、実際に授業で活用できる蔵書構成になっているか、という点においては課題となっております。学校の授業で活用できる蔵書構成につながるよう、学校司書の専門性を活かし更新してまいりたいと考えております。

最後になりますが、学校図書リクエスト事業を紹介いたします。昨年度から実施している、学校図書館に定期的に新刊本の情報提供を行いたいということを目的として、学校図書センターで選書リストを、小学校では30点、中学校では20点を選書したものをポスターにして、生徒児童から投票をしてもらいます。その中から上位3冊を購入し、学校に届けております。平成26年度については2月を最後に、8回実施いたしました。以上で私から報告を終わります。

【事務局：大久保主事】

平成27年度北広島市図書館並びに学校図書センターの予算案概要を説明いたします。

まず始めに、この予算案の概要は、今後、平成27年第1回定例議会の議決を受けて平成27年度予算として決定されることとなります。現段階での予算案であることをご承知置

き下さい。

それでは、図書館に関する予算案を説明させていただきます。

- ①報酬は、図書館協議会委員報酬で、平成 26 年度から増減はありません。
- ②報償費につきましては図書館利用モニターへの謝礼金で、こちらも前年度から増減はありません。
図書館利用モニターとは、図書館サービスの資質向上を図るための外部評価システムとして、モニター2名を委嘱し、分館を含む図書館を利用・巡回し、定められたチェックシートを基に日常業務を検証していくもので、調査は匿名で行われます。
- ③旅費については、図書館協議会委員費用弁償と、職員の旅費となっており、前年度から増減はありません。
- ④需用費につきましては、主に本館と 4 地区館の図書購入費です。臨時分として利用登録者用カードと、図書館用封筒の購入を見込んでおり、増額となっております。
- ⑤役務費は、日経テレコン 21、道新記事、官報等のデータベース利用料です。
- ⑥委託料は、主なものとして図書館窓口等業務委託費となっており、減額となっております。
- ⑦使用料及び賃借料については、図書館システムなどに関する借上料です。減額分は平成 26 年度において、システム更新年にあたり、入札によって新規契約を結んだことから、金額が精査され、減額となっております。
- ⑧備品購入費につきましては、平成 26 年度システムサーバーの費用として見込んでおり、平成 27 年度では不要のため、その分減額となっております。
- ⑨負担金補助及び交付金ですが、市民との協働による図書館運営を進めるための、図書館フィールドネットへの交付金になります。負担金としては、日本図書館協会、北海道図書館振興協議会、石狩管内図書館協議会の会費となります。
- ⑩公課費についてですが、移動図書館車の重量税となっており、前年度から増減はありません。

合計すると、平成 27 年度の図書館運営経費は 92,883 千円となります。

続きまして、学校図書センターに関する予算案を説明させていただきます。

- ①需用費につきましては、小・中学校の図書購入費と、学校図書室の新聞購入費などで、増額は事業拡大により、事務用品などの消耗品費が次年度から見込まれたためです。
- ②役務費は、学校巡回図書「豆次郎」の運搬費用で、年 3 回実施いたします。増額分は運搬費用の値上がりによるものです。

この「豆次郎」とは、全小学校の各学級に 35 冊の本が入った木箱を配置し、1 ヶ月ごとに学級間を巡回させ、4 ヶ月ごとに学校間を巡回移動する、児童図書学校巡回事業です。

- ③委託費は、学校の図書購入費とデータ管理をする学校図書整備委託費であり、学校図書センターの委託職員 1 名と学校司書 3 名となっております。

④使用料及び賃借料は、学校図書ネットワークシステムの借上です。このシステムも図書館システムと同様、平成 26 年度において、入札によって新規契約を結んだことで、金額が精査され、前年度から減額となっております。

合計すると、平成 27 年度学校図書館センター予算は 15,299 千円となります。

【舟橋会長】

ただ今、事務局より平成 26 年度に関する利用状況、平成 27 年度予算関連について報告がありましたが、以上の説明に対し質問や意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

【舟橋会長】

意見が出にくいようなので、まずは私からよろしいでしょうか。

電子書籍やインターネット時代の影響もありますけども、私も含め、アマゾンの影響が非常に大きいと思います。つい最近もそのアマゾンで、中古本を 1 円とか 10 円で購入しました。また、昨年道都大学において大学図書館の大会がありまして、そこで話が出てきましたが、非常に今危機感を持っておりまして、なおかつアマゾンの影響もあり、いろんな人が本を借りにくい環境になっていると思います。

そんな中で、やはり図書館の利用数を上げてきたいという本音もございますが、そこらへんは皆さんどうお考えでしょうか。

【伊藤委員】

先日の道新記事に書店のお話が載っていたと思います。そこでは若い世代がリアル書店と言って、書店に足を運んで、本を選んで、しかし、我々の世代では電子書籍やインターネットで読みたい本を検索している。逆に我々の世代の方が、書店に足を運ぶのが億劫になってきて、インターネットを利用するようになってきている。そんな中で、書店がリアル書店といわれてきている。図書館がそのリアル書店の役目を果たして、本を手にとって利用に繋がるような取り組みをしていけたらいいと思います。

【名越委員】

本屋で見歩いていて感じたのですが、紹介コーナーがあるとわかりやすいし、私もそこから本を選ぶことが何回かあります。そういうのがもっとあると借りやすいのかなと思います。

【伊藤委員】

例えば館長さんや、司書などのお勧めのコーナーなんていうのも面白いかもしれません。

【岡元委員】

赤ちゃん絵本についてなんですが、実行委員が中心となって、2年がかりで作っているのですが、若いお母さんに手渡しすると、大変喜んでくださる。そういうことを今0歳に限りで行っているのですが、次は1歳、2歳、3歳というふうにやりたいという声の実行委員の中である。しかし、年間何冊かという発行に限りがある絵本ですので、難しいなど感じております。

【事務局：蛭名主査】

今頂いたご意見を参考として、図書館が資料を貸し出しするだけでなく、人間味のある対応を考えていきたいです。例えば特集などは他分野にわたり、手づくりのPOPなどで紹介ができるような形を考えていきたいです。

【舟橋会長】

他に何か意見等ございますか。

【伊藤委員】

今、豆次郎のほかに何か、巡回事業がありますか。

【事務局：太田主任】

保育園、幼稚園に対して、巡回事業を行っております。保育園2園、幼稚園2園なんですが、小豆（あずき）という名前で事業を行っております。豆次郎が年3回、学校間を巡回しているのに対し、小豆は年2回の巡回を行っております。資料は図書館より移管した幼児絵本を再利用した形をとっております。

【岡元委員】

AVサロンの上映会の希望などのアンケートはとっていますか。

【事務局：蛭名主査】

以前には、こういった特集をやってほしいというアンケートも行っていたこともあったのですが、今は職員の方でまとめまったテーマのものを月ごとに組んで、上映会を行っております。

【舟橋会長】

AVブースを利用する年齢層はどれくらいになりますでしょうか。

【事務局：蛭名主査】

定年を迎えた男性の方が多いと思います。4月位になりますと、上映会に関する問い合わせが多くなって来る。初めて来られる方は、広報誌を見てくる方が多いようです。

【伊藤委員】

利用者層の高齢化などにより、何かものを用意しないといけないといったことはありますか。

【事務局：蛭名主査】

今課題となっているのは、皆さんお座りいただいている椅子ですが、これが上映会でも使用されており、長時間、高齢者の方が座るにはつらいという声がありますので、要望していきたいと考えております。

【舟橋会長】

高齢者の図書宅配サービスについては、私が想定していた人数より少ないのですが、これは人数を制限しているとか、条件等があるのでしょうか。

【事務局：蛭名主査】

70歳以上を対象としておりまして、1人で、あるいは家族の方が、図書館に来られないという条件で受け付けております。ただ人数については制限しているわけではございませんが、2週間に1度訪問しておりますので、人数が多くなりますと、その分負担が大きくなり、本を用意したり、そういった部分に細かな配慮をしていく必要があるのかなと考えております。今現状の中では十分な状態で、ボランティアさんも含めまして、宅配できているという状況です。施設につきましては、もしよろしければ菊地さんの方から、現状のお話をお願いしたいと思うのですが。

【菊地委員】

去年からはじめている事業なのですが、利用対象者は忙しく、なかなか図書館へ足を運べない職員を対象にもしており、リハビリセンターを利用している方全員という事で、センター内へ本を紹介させていただいております。また、宅配回数については、月に1度図書館に宅配をお願いしておりまして、1度に10冊程度の小説や、話題性のある新刊やお勧めの本を宅配していただいております。

また、この事業が始まる前までは、家族の方などに本を借りてきてもらい、面会等の際に本を届けていただいております。この事業が始まりますと、訓練師さんを通じて、段々と利用者さんからの口コミが広がり、利用者が増えていっている状態です。また、センター内に多目的室があり、その中に地域の方々からの寄贈の本があるのですが、30年以上経っておりますので、本が好きな人は全て読んでしまうため、ものすごくこの事業は助かっ

てます。私がこの本の宅配の担当をしているのですが、今後も頑張っけて続けていきたいと思っております。

【伊藤委員】

高齢者等の図書宅配サービスについて、国からの補助金等を利用できないのですか。

【事務局：蛭名主査】

今、図書館の単独事業として実施しており、関連があれば、福祉分野等と連携していきたいと考えておりますが、今の所は、私共のところに情報として入ってきていない状況です。

【舟橋会長】

4 ページにある予約受付件数が載っていますが、この中で、利用者が固定化されているのですか。

【事務局：蛭名主査】

基本的には読める分だけ借りるということで予約のお願いはしているのですが、人によっては 20 冊予約する方もいらっしゃいますし、返す際に次のものを予約して行く方もいらっしゃいます。

【舟橋会長】

6 ページを見ますと、学校図書の利用状況について載っておりますが、小学校の方が中学校に比べ利用状況が多いというのはなぜでしょうか。

【事務局：太田主任】

小学校は中休み・昼休みの貸出があり、また、学校により放課後の開放も行っているためだと考えられます。ちなみに、北の台小学校においては授業と授業の間にも図書室を開放しています。

【駒場委員】

北の台小学校だと朝の始業前もすでに混み合っており、更に中休み、昼休みも混み合っている。背景としては、平成 21 年度にパソコンが導入され、同時にカードが個人もちで児童が自由に本を借りることができるようになったことが、貸出が多くなる要因になっていると思います。

【菊地委員】

私が中学校時代に、朝のホームルームの前に読書をする時間が設けられていましたが、北広島市では朝読書という取り組みは行われているのですか。

【事務局：太田主任】

毎日ではないですが、定期的にその取り組みは行われていると聞いております。

【舟橋会長】

学校図書リクエスト事業について、7ページに載っていますが、そのリストは誰が作り、またどのような本がリストに載っているのですか。

【事務局：太田主任】

リストは学校図書センターが作成し、その中からリクエストをしてもらう形になっております。リストに載せている本についてですが、学習関係の本を含めてはおりますが、一般書で言うとベストセラー的なもの以外での、読み物を中心とした、おすすめの本を選んでおります。

【伊藤委員】

生徒・児童に対し、夏休みなどの読書の際に、北海道が推薦する本などというのは、学校で買っていますか。それとも図書館で買っていますか。

【事務局：太田主任】

学校によっては、配分予算の中で購入されている学校もありますが、公共図書館等で資料がありますので、図書センターとしては購入しておりません。

【伊藤委員】

予算の役務費のところ、各種データベース利用料の中に官報が含まれていると説明がありましたが、官報を市民が見ることが少ないように思えるのですが。

【事務局：蛭名主査】

日経テレコンの利用は多く利用されておりますが、その他のデータベースに関しては、あまり多くはない状況ですが、記事や日付等の検索もできるものとなっており、図書館としては基本的なものとして必要としております。

【伊藤委員】

現在、小・中学校に学校司書さんが来てくださっておりますが、小学校に関して、もう少し司書さんが来てくださる頻度を増やしていただけると大変助かります。

【事務局：太田主任】

要望としてお受けし、検討させていただきます。

【舟橋会長】

他に何かご質問等がありますか。無いようですので、以上で議事は全て終了になります。

【閉会：丸毛館長】

以上をもちまして、平成26年度第1回北広島市図書館協議会を閉会させていただきます。